

相談ネットワーク通信

No.69

2011.6.20(月)

子育て・教育なんでも相談ネットワーク 岡山市北区表町1-4-64上之町ビル3F Tel.Fax 086-226-0110

東日本大震災

被災地へ届けたメッセージ

加百智津子

おかやまコープ

福島県では風評被害のために宿泊客のキャンセルが相次ぎ、民宿が存続の危機にあると女将さんがテレビで訴えるのを見て、これなら私にもできる！と即決し、土・日と有給休暇をあわせて3日間の旅に出ました。岡山から新幹線で東京へ、そこから、「がんばろう日本」「がんばろう東北」とポステイに書かれた東北新幹線と郡山へ、次に超ローカル線の磐越西線に乗り換え会津若松へと、片道約8時間余の長旅となりました。車窓から、ビニールシートで覆った家々や、土砂崩れのために

木々がなぎ倒されている光景も見え、被害の一端を目の当たりにしました。

目指した民宿は会津西街道の宿場町として栄えた集落が保存されている山深い場所にある大内宿です。遠い所でしたが、被災地を訪れ、「私たちは皆さんを決して見放していませんよ」というメッセージを届けたかった私には、長旅など全く苦になりませんでした。被災地へ足を運び、こうした気持ちで届けることの大切さは、医療支援ボランティア団体(アムタ)の菅波代表に教わったことです。

民宿の女将さんはもちろん、会う人ごとに「遠くからありがとうございます」と喜ばれました。私と同じようにテレビを見てやってきた泊り客も何組がおられ、美味しい夕食のあと、囲炉裏を囲んでの話はつきませんでした。緊急避難を強いられる家族もおられ、目の前で親しい人が津波に流されたこと、地震や放射能の恐怖、プライバシーの無い心休まらない避難所のお話しを聞き、かける言葉もありませんでしたが、「話を聞いてもらえて嬉しい」と言われ、また、「これから私たちが忘れないで」との言葉に被災者の方の切実な願いを感じました。復興までには計り知れない時間がかかるでしょう。私はこの旅で、被災地を忘れず、つながっていくことを心に刻みました。

(かど ちずこ)



おがやま朝まるステーション

難波一夫さん出演

2010年11月25日(木)、26日(金) ②



—改めて今日のお客様をご紹介します。子育て・教育なんでも相談ネットワーク代表世話人の難波一夫さんです。難波先生には、もう山陽放送ラジオは20年程前から、いろいろの場面で出演をお願いしていて、ラジオをお聞きのみなさんにもすっかりおなじみのお声とお名前だと思っんです。が、改めて、おはようございます。

難波 おはようございます。

—「難波先生のお声

をお聞きして懐かしく思います。以前の番組にも、電話ですが出演されてましたよね。ずっと聞いてました」

(元祖・桃太郎さん)。

「懐かしい難波先生の大好きなお声、とても癒しです。2日間、楽しみにしています」(匿名さん)からのメールも届いています。

難波 うれしいですね。

—お元気でいらっしやいますか、いつもの間にか81歳ということ、子育て・教育なんでも相談ネットワークも、もう20年？

難波 そうですね。私の、81マイナ20の時から始まった

わけですから…。

—学校の先生は定年で退職されて60歳。それから…。

難波 そうです。それからずっとですからね。

—あの、「はつきり言って、デモシカ先生だったんです。でも、張り切っておりました」とおっしゃっておられましたね。難波少年は「大人になったら何になりたい」というような夢をお持ちだったのですか。

難波 はい。私らの時代は戦時中なものでね。だから、軍人になるのが夢だったし、それから、両親も「立派な兵隊さんになれ」というのがね、大きな希望を託してくれたとい

いますか、「しつかり頑張り」ということで、それに応えるのが親孝行だと思っていましたから、そのために一生懸命に勉強して、こうと思つて、それで迎えたのが昭和20年なんですよ。8月15日、終戦の日ということになりました、その時が中学校の4年生だったわけです。

—岡山一中の…。

難波 岡山一中の4年生だったんですけど、その時にちょうど陸軍士官学校の試験があるというので、広島まで行く予定だったんですけど、日程が少し変更になりました、その時に陸軍経理学校の試験を受けに行った同級生たちが原爆にあつた

いうことになりましたけれど、私は、運よくといましようか、原爆にあわずに先にのびるというようになりましてね、結局、陸軍の軍人になることもなく、終戦を迎えた。

それで、そこから先、自分は将来何をしたらいいのかということの夢も希望もなかなか出てきませんでした。特に、岡山の空襲で家は丸焼け、父も仕事を変わる、住むところがない、母親の奥家に帰る、そこでつましい生活を繰り返すというようなことになりましたね。それで、なんとかが学校を出たあと、やらなきゃならん仕事を見つけてる中で、

たまたま中学校のときの恩師が高校の校長先生をしていらつしやつて、そこへ来ないかといわれまして、行ったのが運のつきといいましようか、はじめの一步になりました。

— 運のつきなんておつしやらないでください。

難波 ハッハッハッハ…

— 岡山一中は、お城のところに…

難波 そうなんですよ。お城のところへ勉強に行つたのを思い出しますね。でも、2年生まではしつかり勉強したんですけど、あとはクラブの万寿工場へ生徒動員で行きましてね、チボリがあったところですよ。あそ

こで飛行機を作る仕事をすつとやりました。

— 当時「ナンブー」といわれていた…、お友だちから…

難波 はい。

— どうしてですか？

難波 「難波のブタ」という…、太つていたんですね。それで略して「ナンブー」「ナンブー」というのがあだ名でした。

— そうですか。

難波 はい。

— 感じ悪いですね。

難波 いやいや、別にそうは思わなかったですね。

— むしろ、仲間内のニックネーム…

難波 はい。あ、ナンブー、あ、なんじゃ、あ、な関係だったですから

…

— ああ、そうですね。なるほどねえ。

で、その中学校も焼けてしまった6月20日、岡山が戦場であった。

空襲？

難波 空襲にあいましたね。

— それを、けつして忘れることはない…

難波 はい。忘れられませんが、特に、父親が当時、町内の役員をしておりましたね、

夜のさなかに「空襲じゃ！ 空襲じゃ！」という近所へ伝令のように走つてまわつて、父親がいなくて、早くも爆弾が落ちはじめましてね、ちやうど門田のいま山陽女子高校になつている、あそこへカネボウがあり

まして、あそこを集中的に狙って爆弾が落ちたようでした。それで、もうとにかく逃げんといけんというんで、母親はリュックサックの中にお米と位牌と貯金通帳を入れて、逃げる用意をし、私たちは弟と一緒に布団をかぶって逃げる用意をしながら、父親が連絡をして帰ってくるのを待つていたという状況でした。

— 今日あつてニューズに入ってくるかもしれないが、韓国と北朝鮮の間でこんなでも「かつてこの岡山でもぞつたんだぞ」という実話で

(4面につづく)

(3面のおつき)

すよね。

難波 そうなんです。それで、何人も空襲で…。戦争というのは、テレビや映画で見ると、真実というのは残酷なものですね。玉井宮というお宮が東山にあるんですが、そこを一生懸命逃げたんです。アメリカ軍がピカールと光る照明弾を落とす落としてね、明るくして、黄燐焼夷弾やなんかを落とすしていくんですね。黄燐焼夷弾と油断焼夷弾というのがあって、黄燐焼夷弾は普通の温度でも発火します。そして、いたるところが火事になって…。

「おびくろを支えて懸命に走った。『私はしんどいからここに残る』何を言うんじや、死んでしまうぞ。バチバチと燃えあがった炎の映る横顔をにらみつけ、それでも走った。照明弾が落ちる、まぶしい、思わず身を縮める、直後に爆弾、シュルシュルシュルシュルシュル、道ばたに焼けた遺体が横たわっていた。布巾を掛け、手を合わせて走った。それからしばらくいられたらどううか。夜が明けてきた。家はどうなっただろうか。教科書は、かわいかったネコは、ニワトリは。近くまで帰ってみたり、何もか

もすっかり焼けてしまっていた。そう、本当に何もかも。『これで我が家も終わるじや』。搾り出すように言った父親の声を忘れることはない」

難波 はあー、何かに書いておりましたねえ。

「岡山が戦場だったとき」と題して、難波一夫先生が書かれました、そのページを紹介しました。

CM ニュース CM

今朝のお客様、子育て・教育なんでも相談ネットワーク代表世話人、難波一夫さんです。難波さん、「なんでも相談ネットワーク」と看板に出したも

のですから、いろんな相談が寄せられていて。子育てと教育に関してというおつもりだったのに、戸惑ったという場面もあって、だっただか。

難波 はい。ということば、子どもの相談を考えると、親の考え方とか、親の方針とかいうものに必ず行き当たりますよね。だから、子どもを変えていくためには、親が変わらんといけないという部分もあって、それに気づいたお父さんやお母さんからの電話がずいぶん増えてきましたね、最近では人生相談のようなものが一番多くなりました。

親御さんの人生相談が…。

難波 しかもそれは、子どもさんのことを通じながら、子どもの話をしながら自分のこれからの人生について考えていくという、そういうつながり方として増えてきたように思います。

—そうですか。難波先生を中心に、いま8人の方が活動されているということで、ボランティアです。そして、私たちの仕事はコーディネーターのよいうなものだとおっしゃっています。しかしながら、子育て・教育なんでも相談ネットワークという事務所は、現代の「駆け込み寺」というふうにも理解できるのかもしれないが…。



(イチゴ大福モッチさん)「難波先生のお話は、楽しみにしていません。私は先生にお会いしたことはありませんが、以前あった朝の難波先生のコーナーを楽しみに聞いていました。また、末娘が高松農業高校でお世話になったことで、より身近に思います。私には3人娘がありまして、それぞれ娘たちは違う高校で高校時代を楽しんでいましたが、末娘は特別で、先生のお人柄のように、高松農業高校で毎日、楽しく楽

しく登校してました。中学時代にはちよつと問題があったりした子ですが、でも、おかげでとてもよかったです。暖かい心遣いのお話、いっぱいお聞かせください」というメール。

こちらは「9年前、先生のやさしい励ましが私の救いでした。高校の息子が不登校になり、初めてのことに戸惑い、苦しみ、悲しみ、何で? って自分を責めたり、人のせいにしたり、本当につかうかったです。でも、先生に話を聞いてもらい、本当にあの頃、乗り越えることができました。未だ社会には出ていない息子で、先生にいい報告もできませ

んが、家業を手伝い、年々よい変化を感じています。将来、不安がないわけではありませんが、とにかく今があること、先生に感謝で、もうお声を聞くと涙が出ます。放送、楽しみにです。8歳にはとても思えませぬよ。Yさんという方から。

難波 ありがとうございます。——みなさん、先生のお人柄に、ラジオを通してふれて、あるいは直接ご相談されたりというメールも届いています。今日も先生のお手元には、たくさんのお子どもたちの心が集められた、ファイリングされて、ずいぶん分厚い。

難波 そうです

ねえ。20年間の私の宝物ですから。

——ご紹介いただけますか?

難波 そうです。ねえ。いろいろあるんですけど、私は立派なお父さんやお母さんになろうということばっかりを考えないで、こんな子どもたちの声があるんだというのを、一つ紹介したいと思えます。

それは、小学校5年生の子で、「私の母ちゃんバカ母ちゃん」という作文を書いた子がいるんです。

——「私の母ちゃんバカ母ちゃん」

難波 「私の母ちゃんは、ほんとうにバカです。いつも失敗ばかりしています。炊事と

洗濯を一緒にするから、煮物の途中でシャツを干そうとしていて、煮物が吹きこぼれ、火を止めに行くとすると、竿に通しかけたシャツは地面に放り出されます。シャツは泥だらけ。そして、煮物の鍋はひっくり返してだいなしです。すると、バカ母ちゃん、は、ひょうきんにすぐおどけて謝ります。

「こんな私で悪かった。ごめんね。父ちゃんかんべんな」。すると、父ちゃんは「バカだなあ」と言って笑います。そういう父ちゃんもバカ父ちゃんです。いつかの日曜日、みんなで朝ごはんを食

(12面につづく)

みんなに知らせたい！ 本！！ ⑧

岡山市立高島小学校司書
後藤 敏 恵

「すごい本だなあ」とつい読み込んでしまう本があります。でも、多くの人々の目にとまらぬうちに出版社が出版しなくなることもあります。「貴重な文化が知られてないよー なんてー」と思います。だって、私は学校司書だから。「こんな勇気と希望をわきたたせてくれる本は、みんなに知らせなくちゃ!!」と思います。そんな本を紹介させてもらうことにしています。



長野県にある慰霊美術館・「無言館」は、戦争で亡くなった画学生の絵を展示しています。窪島誠一郎さんが開設した美術館です。そのなりたちを、子どもたちにもわかる言葉で書いた絵本が本書です。窪島さんは、一九四一年生

「命あるものをたいせつに」 — 「無言館」が放つ力強い希望 —

『約束「無言館」への坂をのぼって』

窪島誠一郎作 かせりよう 絵

アリス館 二〇一〇年版
一四七〇円(税込み)

まれ。戦後の焼け跡で、親子三人、毎日懸命に働いて暮らしていました。窪島さんはイジメにあいながらも、中学校の先生の「絵描きさんが作家さんになれ」の言葉を励みに、絵描きをめざしました。高校を卒業した時、年をとった両親の姿を目の当たりにして、夢を先送りして会社づつめを選びました。

彼は、戦争で左手を失ったけれど、右手で絵が描けるからまだいい。戦争では、もつともつと絵の好きだった絵描き志望の仲間たちが、たくさん死んでしまった」と、くやしがるのです。その夜、窪島さんは包帯をした画学生さんたちが出てくる夢を見ます。画学生はみんな泣いています。「もつともつと、ボクたちは絵を描きたいんだ。だから、戦争なんかに行きたくない。誠一郎さん、どうか、ほ

くたちの一生懸命描いた絵を
観にきてくれたよ」と言う
のです。

窪島さんは画学生さんたち
の絵を観に、全国を歩き回
りました。戦後五十年が経つ
ても、どの絵も生きて輝い
ていました。

鹿児島県種子島の日高安典
さんは、戦争に行く半日前ま
で恋人の絵を夢中で描いてい
ました。「あと五分 あと十
分 この絵を描いていた
生きて帰ったら かならずこ
の絵の続きを描くから」とう



言って戦争に行つて、ついに
帰つてこれなかった。「くや
しい！」八十歳になった弟さ
んが涙ぐんでいました。

絵に出合う旅は続きます。
ある時、左手のなり給描きさ
んが言います。「キミも絵描
きになりたかつたんだらう？」

キミなら きつと 戦死し
た仲間の美術館をつくれると
思うよ」

旅を始めて三昇…。窪島さ
んはそれまで貯めていたお金
で、戦死した画学生さんの絵
を集め始めました。「遺族は

よろこんで絵を手渡してく
れ、どこで書いたのが美術館
建設のための応援金が届く
よつになります。戦争で死ん
だ人たちの思ふ手紙ととも
に。窪島さんは返事を書きま

岡山市には市立の小・中
学校・高校に一枚一名の学
校司書が配置されていま
す。私たち学校司書は、学
校図書館で、どの子にも
「読みたくなる本や読みつ
いでほしい本」を準備し、
「知りたい」と思うような紹
介をして、子どもたちが読
書や学ぶことが好きになっ
て自分の力を発揮できるこ
とを願って仕事をしていま
す。

「かならず かならず
美術館をつくらせてみます」
念願の美術館は、一九九七
年五月二日、長野県上田市
(古野曹三四六二)に完成し
ます。

なぜ 美術館は「無言館」と
いう名前なのでしょう。本書
のタイトル「約束」とは、どん
な「約束」なのでしょう。

窪島さんの語る言葉は、短
いけれど、どの一言にも真心
があります。どのページから

も強いあたたかさが伝わりま
す。戦争で亡くなった方の描
きたいという切望や、「遺族
の思いや、美術館を応援して
きた人たち…、さまざまな真
実の心が、窪島さんの言葉と
なつて描かれています。

美術館完成後、窪島さんは
亡くなった両親の夢を見た
書いています。「ぼくは初め
て両親からほめられて とて
もうれしかった」と。

(二)ごとう としえ

早すぎますよ、立石さん

相談ネットワーク

高田 智長

立石さんのあまりに早過ぎる計報に接したのは、6月2日(木)昼前でした。病院にお見舞いに来たお孫さんに、アンパンマン・グッズを貰って励まされ、元気を回復しかけた(ように見えた)矢先の翌未明、ほんとは急な逝去だったとのこと。

ネットワークの相談員に加えて頂いたのが1996年、私とは同期生(年齢は彼女の方が若い)で、何年間が同じ曜日を担当したことがありました。時間に余裕のあるときや、昼食を摂りに

外へ出たときなど、様々な話に興じたもので、そこで知った彼女の日常生活は、実に豊かでユニーク、その多彩な活動ぶりは、多くの方々よくご存知と思いますが、私のみた立石さんの活躍の一端を紹介し、在りし日を偲んでみたいと思います。

相談ネットワークでは、毎月の学習会の企画・立案、司会・進行とその後の懇親会のおいしい食事手配してくれました。また相談活動の方は、「あの…女の先生いらっしやいますか」と立

石さんをご指名の相談電話が、ほぼ毎週定期的にかかってきたものでした。彼女のゆったり穏やかな対応ぶりは、電話のむこうでもきつと癒されてるだろうなと感じられるような、そんな優しさに溢れたものでした。「うどんについても一家言ある人でした。おいしいうどんを求めて讃岐路を駆け巡り、滋養のあるところを樂しげに披露してくれました。

「日本秘湯の会」会員として、その足跡をほぼ全秘湯に印す。ネットワークの旅行でその知識を生

かし、彼女紹介の四万十川源流、一の又溪谷温泉に出かけたときのこと、旅館(といった雰囲気の旅籠)到着早々に受けた、鶏卵大の巨大な壺の洗礼、屋根に叩きつける轟音に、しばし話もかなわず。その時の強烈な体験は、今も語り草に。

「日本民謡」の修業にも、打ち込んでおられました。倉敷芸文館で催された一門の発表会に招待された私は、立石さんの順番がくるのを、ワクワク・ドキドキしながら待つていました。やがて大聴衆の見守る中、しず

しずと登場した彼女の艶な和服姿には見惚れてしまいました。歌(稗搦節)の方は、「声そのものは艶と張りがあつて、とても美しい。けど民謡特有のあの節回しは、まだまだ、鍛える余地、大である」。後日、彼女にはこんな生意気な感想を、づけつけと言わせてもらいました。

極めつけは、医療生協に関わるボランティア活動です。彼女自身、かなり若い頃から膠原病と闘う身でありながら、否、それだからこそでしょうか、地域の同志と手を携えて自分の回りの困難を抱える人たちに気を配り、生活相談・病院への送迎・老人が憩う家の立ち上げ等々、さながら宮沢賢治のあの詩「雨ニモ

マケス……にあるような活動を繰り広げておられました。

私の知る範囲だけでも、こんなに多彩な活動を、にこやかに自然体でこなされる方でした。私事ながら、私の妻など、こんな彼女の活躍ぶりをきかせると、はじめのうち、立石さんって、すごい女闘士と想像していたようです。が、実際のところ、彼女のこんな一面を話してやったことがあります。

県庁には、無料で（今は昔）車を置けるのに、立石さんは、よう置かんのだ。用事もないのにそんな厚かましいことは、気が引けて、良心が咎めてできない、なんてね。いくらけしかけても自分の考えを頑として

ホームページができました
 まずはトップページから
<http://www5.ocn.ne.jp/~soudan/>

子育て・教育なんでも相談ネットワーク

〒700-0822
 岡山市表町1-4-64 上之町ビル3F
 TEL/FAX 086-226-0110

育児に迷って、不安になっていませんか
 子どもの不意欲や引こもりで悩んでいませんか
 非行・問題行動・進路問題等で相談するところを探していませんか
 学校が学校でなくっておどろかしい……そんな思いをされた方はおられませんか

「子育て・教育なんでも相談ネットワーク」(略称 相談ネットワーク)は、個人会員(約500人)と数々の団体(岡山コープ・医療生協・高教組・市協労)など40団体の支援によって、1990年7月発足の民間の相談機関です。以下のような活動をしています。

相談・相談活動

曜日……月曜日～金曜日
 時間……10:00～15:00
 TEL……086-226-0110



メールでの相談もできます アドレス soudan-net@vivid.ocn.ne.jp



出版物

「相談ネットワーク通信」を発行しています。№67まで発行しました。なお、№63までは冊子になっています。ご覧になりたい方は電話、メール等でご連絡ください。

講演会・学習会

毎年、講演会か学習会をしています。講師の先生は、大学の先生などそれぞれの専門分野で活躍されておられる方です。

メール相談もできます!!

メールアドレス
soudan-net@vivid.ocn.ne.jp

変えないんだ”。妻は、
 “まあ立石さん、そんな人だったの、素敵、大好き……”。以後、大の立石ファンに。

立石さん、あなたを知
 るみんなが、回復を心か
 ら願っていました。だけ
 どその願いは叶えられま
 せんでした。

“ほんとうに嬉しい人
 を失ってしまった”
 これは、みんなの共通
 した想いです。いろいろ
 ありがとうございます

どうか安らかに眠り
 ください。
 (たかた ともなが)

地震 ドイツの反応と僕にできること

—マイスター奮闘記—⑤

地震の知らせに、日本から一万キロ離れたドイツにも衝撃が走りまわった。

地震と津波、その後の原発の遠慮のない過激な映像ニュースはあたかも日本全土が壊滅的なほどのダメージを被ったかのような印象を与えるようでした。日本ではむしろ不安を煽らないように冷静に現状を伝えようとする報道がなされたようです。時にドイツ人が過敏に反応したのが原発です。

後のエネルギー政策も大きく変わるでしょう。

さらに震災の半月後に僕の住む州の議会選挙において、環境保護を理念に掲げる少数派の政党が大躍進し、58年ぶりという歴史的な政権交代が起こったのです。これは、福島原発のニュースに不安を煽られた多くの市民の票が動いたことが主な原因と言われています。

同じく3日後の月曜日には、州都シュトゥットガルトでも原子力反対デモが行なわれましたし、1ヶ月以上たった今でもテレビやラジオの第一声は福島原発の様子を伝えるものです。1986年チェルノブイリの原発事故で、ドイツは国内の土壤、農作物が汚染され

た経験を持っていて、EU連合の中でも環境基準に厳しく、原子力には不信感が強いのです。

個人的にも、自分の国が危機に直面したことと、学生時代を過ごした東北地方が多大な被害を受けたことにショックを受けました。ただ現状を見守るしかできませんでした。街に出れば車や人々の往来、日常の雑踏が聞こえてくる。職場に行けば、いつもと同じ仲間の怒鳴り声がする。そして当然のように帰る家がある。時に申し訳ないくらい普通の生活が送れているのです。

周囲のドイツ人の多くは、僕の家族の無事が分かると一緒にそれは本当に良かったと言ってくれます。それを素直に喜ん

でいいのかわからないけど、心配してくれたことには礼を言います。先日久しぶりに会ったドイツ人の友人が何も言わず、僕をただ抱きしめるのです。日本人と同じように心を痛めてくれてのが伝わってきました。

また、地元の新聞社から日本人ということを取材を受けたのですが、その記事を讀んだ方から多くの問い合わせが働いているパン屋に寄せられました。中には、店の厨房で働く僕を見つけてカウンター越しにお金を寄付して下さった方もいました。

こんな中、4月初めの週末、日独友好15周年を記念した文化交流イベントがシュトゥットガルトであり、チャリ

ティーで日本の菓子パン3種(アンパン、クリームパン、メロンパン)と食パンを焼いて販売しました。勤務先のパン屋が快く厨房と材料を借わせてくれ、

また350キログラム離れたルール地方に住む日本人の友人3人が何かできることをしたいとわざわざ手伝いに駆けつけてくれました。日本の味が恋しいと一人で幾つも買ってくれた日本人、興味津々にどんなパンが聞いているから買ってくれたドイツ人、長蛇の列ができる程の売れ行きで、材料費を引いて計2180ユーロ、日本内で約25万円の義援金が集まりました。

今回の義援金は復興

のために微力ながら役に立てられるでしょう。しかし、人々の心を救い、彼らが内面から立ち上がっていくのを助けられるのは、人の思いだと思います。

今回協力してくれた日本人の友人が後日こう言っていました。

「私は音楽を演奏したりパンを焼いたりしてお金を集めることはできない。今はそんな才能が衰えたい。せめて涙がお金に変わればいいのにな。福島に縁のある彼女も今回の震災で心を痛めた一人です。医療に携わる彼女は、夏日本に帰ったら福島病院で働きたい、そして少しでも福島の人々の力になりたい」と語っていました。今

回のイベントでも何かできるなり手伝いに来ると最初に申し出てくれ、彼女の思いを聞いて気持ちの引き締まる思いがしました。やるからにはパン職人として必ずいいパンを焼いてたくさんの人に買って食べて頂きたい。

また厳しい報道の一方で、著名人による多額の寄付金、企業の支援、ボランティアで現地に赴く人々、募金活動、外国からの援助の声、そういった温かい知らせは、外国に住む僕らの不安すらやわらげてくれ、改めて人っていいものだと思わせてくれます。そして自分たちももつと何かできるのではと思わせてもくれます。

岩手の被災地にケーキを直接届けた広島の実業家の知人がブログに書いていました。「現地はやはり、胸をしめつけられるほどの現状でした。ただ、現地の方々は、本心に、日本人として誇れる

方々で、謙虚で鬼いやりにあふれ、自分と同じ立場なら、こんなに優しくいれるか、自己反省と同時に感動しました。支援をする側、受ける側、双方とも相手のことを思い合っていることに僕も感動しました。来る6月1日に我が街へレンブルクで地元のリタリークラブと音楽学校が協力して日本のためのチャリティコンサートを開

いてくれます。パン屋のオーナーが会員ということもあり、そこでも僕は日本のパンを焼きます。7月にもまたイベントでパンを焼く機会があります。

今の僕にできること。ドイツで働く日本人パン職人としてできることをやる。そして、どこにいても同じ時間を生きているので、ならば、パン屋での日々の仕事に励み、日常の生活においても元気で頑張る。

ドイツでも長く暗い冬が今年も終わり、春が来ました。太陽の光で植物の柔らかい芽が膨らみ、花々も今まさに咲き乱れんとしてい

(12面につづく)

(11面のつぎ)

ます。そしてこれはもうドイツ人の習慣でしょうね。太陽がちよつとでも出ようものなり、通りに張り出したカフェでアイスを、庭に出て本を、公園の芝生に寝そべって楽しい会話をと、一斉に家の外に出て各々の活動を始めます。

そして夏時間がもう始まっています。時計の針を1時間戻しました。深夜に働く僕らパン職人はリズムが狂って夕方寝つけないと不満ですが、日の明るい午後を1時間長く堪能できる一般人は羨ましいです。ドイツは緯度が高いのでこの時期になればもう夜の8時で



もまだ明るいのです。昨日、久しぶりに街のシンボルの教会が立つ小高い山に登りました。赤い屋根の家々に、街のはずれから伸びる畑、その向こうに点在する幾つかの集落、さらに向こうの緑の山々、その上に広がる大きな空。春の気持ちのいい風が吹いて、街全体と辺り一体の風景を見渡すことができました。

どんなに厳しい冬でも春は来る。東北の花よ、どうか今年も見事に咲き誇ってほしい。
2011年4月18日
日高 晃作

(5面のつぎ)

べていると、奥からあわてて、ズボンと洋服を着ながら、カバンを抱えて茶の間を通り抜けていきました。「ああもうだめだ、こりやいかん」とか言って、玄関から飛び出して行ってしまいました。「しばらくすると帰ってくるからな」と母ちゃんは落ち着いたものです。すると案の定、父ちゃんは帰ってきて恥かかしそうに「また無駄な努力をしてみました。日曜日じゃというのに、ハハハ」と言い訳を言っています。そんなバカ父ちゃんとかバカ母ちゃんの間には生まれた私が、利口なはずがありません

ん。弟もバカです。私のところは家中みんなバカです。でも、私はそんなバカ母ちゃんが好きです。世界中の誰よりも一番好きです。私は大きくなったら、うちのバカ母ちゃんのような大人になつて、うちのバカ父ちゃんのような男の人と結婚して、子どもを産みます。そして、私のようなバカ姉ちゃん、弟のようなバカ弟をつくって、家中バカ一家で、今の私の家のように明るくて楽しい家庭にしたいと思えます。バカ母ちゃん、その時まで元気でいてくださいな」

「すごいでしょう。すごいですねえ。」
(つづく)

「や」 つぱり あなたです
「ま」 すこみにのつて
「ほ」 うじゃく ぶじんの いい
「う」 たわされる 「君が代」
「し」 たがうのは憲法が「条例」か 憲法が守れないなら知事をやめなさい 橋下さん (N)

